

# 人口減少を見据えた 公立幼稚園の有効活用



指導教官：自治大学校客員教授 藤島 昇  
第2部課程 第182期 第1班

25番 鎌ヶ谷市 今井崇徳

27番 小田原市 淵上洋光

33番 土岐市 鈴木喜裕

36番 磐田市 寺田尚人

44番 田原市 渡邊康統

69番 国富町 境田伸一

## 目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析・今後の見通し	
1 人口構成	3
2 幼稚園・保育園の入園児童等の状況	3
3 磐田市の計画	6
4 多様化する子育て世帯の状況	7
第2章 課題・目標	7
第3章 政策提言	
提言概要	8
提言1 廃園する幼稚園の選定	8
提言2 廃園後の有効利用	10
2-1 E幼稚園廃園後の有効利用	10
2-2 B幼稚園廃園後の有効利用	12
第4章 効果	14
おわりに	14

# 《政策提言の要旨》

## 現状分析 今後の見通し

- 1 人口構成
- 2 幼稚園・保育園の入園児童等の状況
- 3 磐田市の計画
- 4 多様化する子育て世帯の状況

## 課 題

- 1 公立幼稚園が多く設置され、大きく定員割れをしている状況にある！
- 2 子育て世帯の保育ニーズの増加！

## 目標設定

住民の子育てニーズに対応しつつ  
限られた予算を効率的に活用するため  
規模に応じた幼稚園の適正配置が必要

園舎の老朽化

園児数の増減

地理的な要因

## 政策提言

- 1 廃園する幼稚園の選定
- 2 廃園後の有効利用

## —効果—

- 1 総量圧縮による更新等に係る経費の抑制
- 2 新たな財源確保
- 3 地域特性を踏まえた施設の有効利用

人口減少を見据えた公立幼稚園の有効活用



磐田市イメージキャラクター  
じっぺい

# 年度当初の業務を スムーズに進めるために



指導教官 自治大学校客員教授 上田 紘士  
(一般財団法人 全国危険物安全協会 理事長)

第2部課程 第182期 第2班

リーダー	16番	群馬県桐生市	青木 秀樹
	6番	北海道羽幌町	門間 憲一
	55番	広島県呉市	中原 愛裕
	76番	山形県米沢市	佐藤 充
	80番	奈良県大和郡山市	吉村 博幸

# 目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
<b>第1章 現状分析</b>	
(1) 地方公務員の時間外勤務の状況	2
(2) 各自治体における時間外勤務の状況	2
(3) 各自治体の特定業務部門に対する時間外勤務状況にかかる アンケート調査	4
(4) 現状のまとめ	5
<b>第2章 取り組むべき課題</b>	
(1) 異動職員の即戦力化	6
(2) 組織としての業務マネジメントの強化	6
(3) 業務の平準化	6
<b>第3章 政策提言</b>	
◎政策提言1 業務手順書とOJTを活用した業務執行	7
(1) 業務手順書の内容	8
(2) 研修指針等(OJTマニュアル)の内容	9
(3) 規程の整備等による仕組みの構築	9
◎政策提言2 住民窓口部門における人事異動時期の分散化	11
◎政策提言3 人事部門における給与支払い事務のアウトソーシング	13
おわりに	14

## ◆政策提言の要旨◆

### 研究テーマ

年度当初の業務をスムーズに進めるために

### 現状

- ・年度当初は事務量が多い
- ・時間外勤務が多い
- ・人事異動による人員の入れ替え



- ・人事異動直後は、一時的に事務能力が低下する
- ・年度内において、時期により事務量の偏りがある

### 取り組むべき課題

- ①異動職員の即戦力化
- ②業務マネジメントの強化
- ③業務の平準化

### 政策提言

- ①業務手順書とOJTを活用した業務執行
- ②人事異動時期の分散化
- ③事務のアウトソーシング

# 住民も職員も幸せになる窓口改革

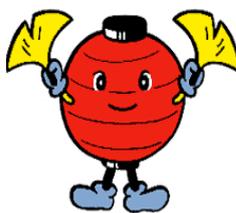
～ 北海道砂川市を事例として ～



愛知県阿久比町  
アグピー



千葉県習志野市  
ナラシド♪



埼玉県久喜市  
来久ちゃん



北海道砂川市  
みまもりんご



愛知県江南市  
藤花ちゃん



千葉県市原市  
オッサくん

指導教官		
自治大学校 客員教授 佐々木 淳		
第2部課程 第182期 第3班		
2番	北海道砂川市	岩間 賢一郎
20番	埼玉県久喜市	菊地 諭
23番	千葉県市原市	土田 耕司
41番	愛知県江南市	中山 享哉
47番	愛知県阿久比町	國嶋 慎
78番	千葉県習志野市	安井 直人

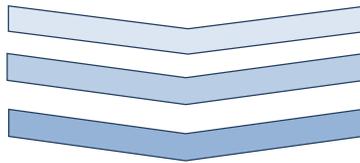
## 目 次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
1 時間外勤務の発生要因	
2 砂川市の部署別時間外勤務の状況	
第2章 課題の抽出	4
1 「随時発生・随時対応」という市役所の仕事の基本的性格	
2 砂川市の事例を基にした検討	
3 長時間に及ぶ相談の発生	
4 課題の整理	
第3章 政策提言	9
1 提言1	
相談を受ける時間帯を調整し、事務の断片化を解消しよう！！	
(1) 相談予約制の導入	
(2) 期待できる効果	
2 提言2	
相談にかかる時間を短縮し、住民・職員双方の満足度アップを図ろう！！	
(1) 福祉相談窓口の導入	
(2) 期待できる効果	
3 提言3	
時間外勤務の縮減にとどまらず、ワークライフバランスを実現できる職場 を目指そう！！	
(1) フレキシブルな時差勤務制	
(2) 規則の改正	
(3) 期待できる効果	
おわりに	14

# 政策提言の要旨

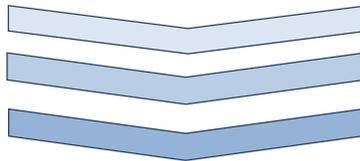
## 【現状分析】

- 多様化する行政ニーズに対して生産性が向上していないため、正規の勤務時間では応えきれず、時間外勤務が増加している。
- 砂川市の事例として、窓口を持つ部署は、その他の部署に比べ、約2倍の時間外勤務を行っており、特に福祉部門が上位1、2位を占めている。
- 時間外勤務の一般的な要因のほか、「窓口対応業務に追われて、事務が進まない」という意見が多く挙がる。



## 【課題の抽出】

- ① 「随時発生・随時対応」という基本的性格が、非効率な業務の要因となっている。
- ② 窓口や相談業務により仕事が中断され、職員が事務に集中できる時間が確保できない。
- ③ 効率的に相談対応を行う体制ができていない。



## 【政策提言】

### 提言 1

相談を受ける時間帯を調整し、事務の断片化を解消しよう！！

### 提言 2

相談にかかる時間を短縮し、住民・職員双方の満足度アップを図ろう！！

### 提言 3

時間外勤務の縮減にとどまらず、ワークライフバランスを実現できる職場を目指そう！！

# 鳥取市における 観光交流人口の拡大に向けた取組

～冬も鳥取にきしゃんしゃん～



指導教官 客員教授 満田 誉

第2部 182期 第4班

13番	福島県郡山市	岩崎浩史
43番	愛知県豊明市	野村和義
51番	鳥取県鳥取市	平田政志
65番	佐賀県伊万里市	中山亮一
67番	長崎県島原市	大嶋圭吾
73番	沖縄県沖縄市	前當昌貴

# 目 次

提言要旨	1
はじめに	2
(1) 人口推移	2
(2) 旅行消費額	2
(3) 鳥取市への提言	2
第1章 鳥取市の現状分析	3
(1) 概要	3
(2) 基礎情報	3
(3) 観光客	4
(4) 現地視察	5
第2章 課題の抽出及びターゲットと目標の設定	7
(1) 課題の抽出	7
(2) ターゲットと目標の設定	7
第3章 提言、実施主体及び効果	8
(1) 提言	
提言1 冬場の誘客を向上させる	8
提言2 ゲストハウスの整備	11
提言3 効果的な情報発信～インスタグラムの活用～	12
(2) 実施主体	13
(3) 効果	14
おわりに	14

## 提言要旨

### 現状分析

- ☆人口減少・高齢化の進展
- ☆鳥取砂丘という圧倒的認知度の観光資源
- ☆冬の観光客数が落ち込んでいる
- ☆日帰り観光が多い（通過型観光）

### 課題の抽出

- ☆冬の鳥取砂丘の観光客増加
- ☆鳥取砂丘以外での誘客

### 【目標】

鳥取市における観光客の増加を図る

### 提言

#### 冬も鳥取にきしゃんしゃん

- I 冬場の誘客を向上させる
- II ゲストハウスの整備
- III 効果的な情報発信～インスタグラムの活用～



### <効果>

冬場における観光客の増加による消費の拡大

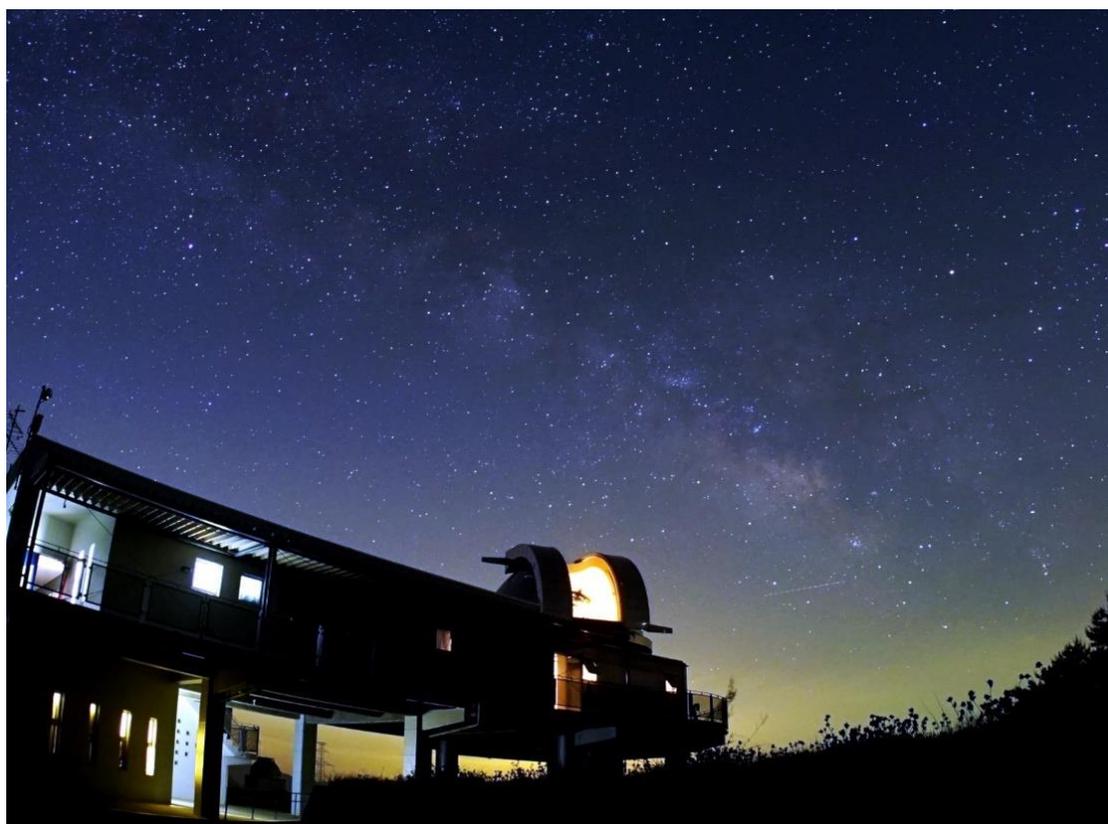
---

---

# 天文・星空資源活用による 地域活性化

---

---



美星天文台と満天の星空

指導教官 自治大学校客員教授	原田 淳志
第2部課程 第182期 5班	
81番 香川県丸亀市	平尾 聖
14番 福島県田村市	郡司 和弥
15番 茨城県土浦市	生田目 晃
54番 岡山県井原市	藤岡 健二
57番 広島県江田島市	白地 隆作
75番 静岡縣市町村職員共済組合	宇野 貴哉

## 目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	3
第2章 課題と目標設定	6
第3章 政策提言	7
おわりに	14

『ほっけえ綺麗な星空』

## 〈政策提言の要旨〉

現状

- ◆ 「地方創生」の核としての観光
- ◆ 井原市の観光事情と取組
- ◆ 天文・星空資源の状況

課題

1. 星空の魅力を十分に生かせていない
2. 不十分な観光客受入体制
3. 地域の関心の無さと郷土への愛着心の低さ

目指すべき姿

- ☆天文・星空資源活用による地域活性化  
(目標)
1. 井原市年間入込観光客数を65万人に
  2. ガイド養成講座修了者を100人に
  3. 新規地元雇用者数を5人に

提言

1. 情報発信の強化
2. 受入体制の整備
3. ふるさと学習を活用した人材育成

効果

地域資源の  
利用促進

人材育成

地域活性化  
関係人口の増加



## 普天間地区の 観光による活性化策について

～縁結び神社による女性観光客の誘致～



### Group6 LEADER

#### 當山 綾

沖縄県宜野湾市

**Ginowan, Okinawa**

学籍番号 72

#### 田村 和也

埼玉県坂戸市

**Sakado, Saitama**

学籍番号 21

#### 秋野 友成

千葉県成田市

**Narita, Chiba**

学籍番号 22

#### 明日見 将幸

北海道浦臼町

**Urausu, Hokkaido**

学籍番号 4

#### 由野 格

北海道新十津川町

**Shintotsukawa, Hokkaido**

学籍番号 5

#### 阿武 正樹

山口県萩市

**Hagi, Yamaguchi**

学籍番号 58

### Group6 PROFESSOR

#### 満田 誉

指導教官  
自治大学校客員教授

## 目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
<b>第1章 現状分析</b>	
第1節 宜野湾市の概要	2
第2節 普天間地区の概要	2
第3節 普天間地区の現状分析	3
(1) 基礎情報	3
(2) 住宅・商店街の状況	4
(3) 交通の状況	4
(4) 地域資源分析	4
(5) 観光分析	6
(6) 住民意識調査分析	7
<b>第2章 課題と目標</b>	
第1節 現状分析結果からの課題等の整理	8
第2節 目標	9
<b>第3章 政策提言（縁結び神社による女性観光客の誘致）</b>	
第1節 普天満宮の魅力の掘り起こし	10
(1) 普天満宮のご利益	10
(2) PR方法等	10
第2節 普天満宮周辺の地域資源の活用と連携	11
(1) 市で整備予定の参道、交流施設等の活用による歴史・民俗体験	11
(2) 普天間ならではの店舗を訪問する回遊コースの設定と特典の付与等	12
(3) 参詣後に気軽に食べられる縁起物のスイーツをPR	12
第3節 期待される効果	13
(1) 普天満宮増加観光客数	13
(2) 観光収入推計（増加分）	13
(3) 「#普天満宮」のインスタグラムの投稿件数	14
おわりに	14

## 政策提言の要旨

## 現状分析

宜野湾市普天間地区は、琉球王国時代から続く普天満宮を中心とした歴史文化の中心地区であり、1月には多くの参詣客が訪れる。また、市内最大の商業集積地であるほか、道路事情もよく沖縄県中部地域の交通の要衝ともなっている。

しかしながら商店街は店主の高齢化等により衰退してきており、今後、地区自体の衰退も懸念される。行政では賑わい創出のため、普天満宮周辺に門前広場、街道等の整備を予定しているが、周辺商店街等への回遊方法等が不透明な状況にある。

## 課題の抽出

データ等による普天間地区の状況からの課題抽出

- 魅力ある地域資源の活用・PR不足、空き店舗の増加 → 来訪者が少ない
- 高齢化の進展、雇用者数が増えない、地価の下落 → 地区の衰退

## 目 標

門前町としての復活による地域活性化

## 政策提言

～縁結び神社による女性観光客（20代～30代）の誘致～

- 普天満宮の魅力の掘り起こし
- 普天満宮周辺の地域資源の活用と連携

## 効 果

観光客の増加、観光消費額の増加、雇用者数の増加、  
雇用者の所得の向上による地域活性化

※副次的効果

高齢化率の低下、地価の上昇（下げ止まり）

# 出水市の地域活性化に向けた 観光客増加の仕組み作り



## 【 指導教官 】

自治大学校客員教授 藤島 昇

## 【 第2部課程 第182期 第7班 】

7番	北海道訓子府町	横山 剛人
11番	宮城県大崎市	齋藤 正和
18番	埼玉県飯能市	鈴木 雅之
50番	京都府向日市	大山 徳隆
70番	鹿児島県出水市	川中 正人
77番	埼玉県加須市	松井 善人

# 目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
1 出水市の概要	
2 観光動向	
第2章 課題	4
1 知名度が低い	
2 観光資源の活用不足	
3 周遊ルートの設定など近隣との連携不足	
第3章 先進地事例	6
1 千葉県香取市佐原地区（古民家改装、あやめ祭り）	
2 京都市下京区（和食作り体験）	
第4章 政策提言	9
提言1 出水麓武家屋敷群の空き家施設の利用	
提言2 出水麓武家屋敷群での飲食等の整備及び新たな体験型イベントの実施	
提言3 インバウンドを対象とした効果的なPR	
第5章 費用対効果	12
1 費用	
2 効果	
おわりに	14

# 政策提言の要旨

## 現状分析

- 日本人国内旅行者数は頭打ちだが、訪日外国人旅行者数は増加傾向にある。
- 国内の外国人宿泊者数が過去最高を記録する一方で、出水市は伸び悩んでいる。
- 近隣の天草市が世界遺産登録されたことで、周辺地域での観光客増加が見込まれる。
- 出水市には、観光資源として「鶴渡来地」と「出水麓武家屋敷群」がある。
- 天草市からの観光客呼び込みに向けた準備が出来ていない。
- 魅力あるコンテンツを発信するため、観光資源の整備が必要である。
- 出水麓武家屋敷群では飲食店等が出店できない。

## 課題の設定

課題1 知名度が低い

課題2 観光資源の活用不足

課題3 周遊ルートの設定など近隣との連携不足

現状では

- ・PR方法の強化
- ・コンテンツの強化
- ・天草市との連携必須

## 目指すべき姿

### 民間観光業者が運営出来るような体制の構築

- 【目標】
1. 外国人観光客の誘致
  2. 観光消費額を約1億円増加

## 政策提言

施策1

出水麓武家屋敷群の空き家施設の利用

施策2

出水麓武家屋敷群での飲食等の整備及び新たな体験型イベントの実施

施策3

インバウンドを対象とした効果的なPR

# スポーツを通じた地域活性化



～富士山の裾野で Let's running!!～



© 裾野市

裾野市マスコット すそのん

指導教官		
自治大学校客員教授 西藤 公司		
第2部課程 第182期 第8班		
28番	小田原市	杉崎 恵理子
37番	焼津市	高川 亮
38番	裾野市	小野 善之
56番	福山市	西岡 雅之
60番	三木町	佐藤 真輔
66番	佐世保市	古田 雄三

## 目 次

提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
第2章 課題抽出	4
第3章 先進事例	4
第4章 ニーズ調査	6
第5章 政策提言	8
おわりに	14

# 提言の要旨



- 富士山の麓に位置し、東京から100km圏内にあり、首都圏からのアクセスも良好
- 主幹産業である工業が縮小傾向にある
- 2,100mの標高差があり、市内の体育施設も整っている
- 市内のビジネスホテルと旅館の稼働率はおよそ50%
- 市の認知度が低く、観光交流客数は富士地域の他市と比べて最も少ない



- 課題① 今後、主幹産業の工業が縮小傾向にある  
⇒新しい分野での地域活性化策の必要性
- 課題② 市の認知度が低く、近隣の市町への通過点となっている  
⇒市外から人を呼び込める地域活性化策の必要性
- 課題③ 首都圏に近い立地、準高地の環境、市内の体育施設等の状況  
⇒裾野市の強みを活かした地域活性化策の必要性



- 提言① 準高地トレーニングの合宿誘致を通じた地域の活性化
- 提言② スポーツツーリズムの取組みを通じた地域の活性化
- 提言③ トップアスリートとの交流を通じたシビックプライドの醸成による地域の活性化



交流人口の増加とシビックプライドの醸成により、裾野市が活性化する！

# 軽度認知障害のある高齢者への早期の支援方策



## 指導教官

自治大学校客員教授 西藤 公司

## 第2部課程 第182期 第9班

9番	八幡平市	遠藤	祐一
19番	深谷市	小川	和成
32番	大垣市	土川	剛史
39番	春日井市	長坂	匡哲
46番	東郷町	山本	康広
59番	高松市	田山	元太

## 目次

政策提言の要旨	…	1
はじめに	…	2
第1章 現状分析	…	2
第2章 課題抽出	…	8
第3章 政策提言		
提言1 軽度認知障害の早期発見	『みつける』	… 9
提言2 早期に適切な支援を行う	『つなぐ』	… 11
第4章 効果	…	13
おわりに	…	14

# 政策提言の要旨

## 現状分析

- ・高齢者の4人に1人が認知症又は軽度認知障害となる(2025年)
- ・軽度認知障害を放置すると、1年10%、5年40%が認知症に移行する(適切な予防などを行えば、約4割が回復)
- ・認知症予防の取り組みが十分でない



## 課題抽出

- ・軽度認知障害のある高齢者を早期に発見すること
- ・軽度認知障害や認知症を正しく理解し、認知症予防の取り組みを積極的に継続して行うこと



## 政策提言

### 【早期発見 (みつける)】

- ・特定健診を活用した発見方法
- ・かかりつけ薬局を活用した発見方法
- ・高齢者ドライバーの運転免許証更新時を活用した発見方法

### 【早期支援 (つなぐ)】

#### 普及啓発

- ・軽度認知障害や認知症の正しい理解の普及啓発

#### 環境づくり

- ・身近な場所で、手軽に認知症予防
- ・認知症予防ボランティアの養成

#### アプローチ

- ・民生委員による高齢者サロンなどへの参加促進
- ・地域包括支援センターによる認知症予防の取組促進と受診勧奨
- ・健康マイレージと連携した認知症予防の取組の継続



## 効果

早期発見・適切な支援による介護給付費の抑制

# 南九州市の医療費抑制に向けて

～メタボ予防が医療費抑制につながる～

## 【指導教官】

自治大学校客員教授 三輪 和夫

## 【第2部課程 第182期 第10班】



お茶むらい

(南九州市マスコットキャラクター)

5 2 番	米子市	吉岡 健二
5 3 番	倉敷市	妻鹿 明
6 1 番	新居浜市	中沢 美由紀
6 8 番	諫早市	樋口 勝也
8 2 番	南九州市	田原 博

# 目次

提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	
1. 南九州市の人口の推移 (H20～H29)	3
2. 南九州市の国民健康保険の被保険者数の状況 (H20～H29)	3
3. 南九州市の国保特別会計の決算状況	4
4. 南九州市の医療費等の状況	4
(1) 医療費総額の状況 (H24～H29)	4
(2) 国保被保険者数の状況 (H24～H29)	4
(3) 一人当たり医療費の状況 (H24～H29)	5
(4) 年齢階層別医療費の状況 (H28. 3～H29. 2)	5
(5) 疾病別医療費の状況 (H28)	5
5. 南九州市の生活習慣病患者の特定健診受診状況と医療費の関係	6
6. 特定健診実施率と一人当たり医療費の関係	7
7. 特定健診の実施状況	7
(1) 国保被保険者に係る特定健診実施率の状況	7
(2) 南九州市における年齢階層別の実施率の状況	7
(3) 特定健診を受けない理由	7
8. 特定保健指導について	8
(1) 南九州市と鹿児島県のメタボ該当者及びメタボ予備群の状況	8
(2) 南九州市と鹿児島県の特定保健指導実施率の状況	8
(3) 特定保健指導実施の有無による一人当たり医療費 (入院外)	8
第2章 課題の抽出・目標設定	
1. 現状分析の結果	9
2. 課題の抽出	9
3. 目標の設定	9
第3章 政策提言	
1. AIを活用した受診勧奨 (課題1)	10
2. (仮称)ヘルスケアポイント事業の導入 (課題1・2)	12
3. 健康意識向上を図るためのキャンペーンの実施 (課題1・2)	13
4. 政策提言による効果	13
おわりに	14

# 提言の要旨

## 現状分析

- ・近年国保特別会計は一般会計からの法定外繰入を必要としている
- ・国保の被保険者一人当たり医療費は増え続けている
- ・50歳以上の者に係る医療費が医療費総額の8割を占めている
- ・生活習慣病関連疾患が医療費総額の3割を占めている
- ・特定健診受診者と未受診者とは生活習慣病関連疾患の一人当たり医療費に差がある
- ・特定健診実施率は50%を超えているが、40歳代の実施率は約30%と低い状況にある
- ・特定保健指導の実施率が低下している



## 課題の抽出・目標設定

生活習慣病関連疾患の予防・早期治療のために

【課題1】40歳代の特定健診の実施率向上を図る → 【目標1】実施率31.7%→40%

【課題2】特定保健指導の実施率向上を図る → 【目標2】実施率47.7%→60%



## 政策提言

- ・AIを活用した受診勧奨（課題1）
- ・（仮称）ヘルスケアポイント事業の導入（課題1・課題2）
- ・健康意識向上を図るためのキャンペーンの実施（課題1・課題2）



## 効果

生活習慣病関連疾患の予防・早期治療による医療費の抑制

# 地域の「たから」を掘り起こす！

～伊勢崎市民の手による世界文化遺産を活用したまちづくり～



(指導教官)

自治大学校 客員教授

三輪 和夫

第2部課程 第182期 第11班

17番 伊勢崎市 山田 篤

45番 みよし市 西世古 貴志

62番 嘉麻市 山口 宏彰

63番 佐賀市 武富 聡宣

64番 多久市 瀬戸口 泰輔

74番 南城市 比嘉 知恵

# 目次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
第1章 現状分析	2
1. 世界遺産	2
2. 境島村地区の現状	2
(1) 伊勢崎市境島村まちづくり推進会議	3
(2) 境島村まちづくりビジョン	3
第2章 課題抽出と目標設定	4
1. 課題の抽出	4
(1) 観光客数と傾向	4
(2) 来訪者アンケート分析	4
(3) 市民アンケート等結果	5
(4) ワークショップ	5
(5) インタビューによる地域課題の抽出	6
(6) 市民活動団体	7
(7) 養蚕農家住宅	7
(8) 小学校跡地	8
(9) 隣接3市の連携	9
2. 課題のまとめ	9
3. 目標の設定	9
第3章 政策提言	10
1. 推進会議の活性化	11
2. 養蚕農家住宅の活用	11
3. 小学校跡地の利活用	12
4. サイン・アクセスの強化	13
(1) サインの充実	13
(2) シャトル運行経路の延長	13
5. 事業の効果	14
おわりに	14

# 政策提言の要旨

## 現状分析

- 世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の現状
- 世界文化遺産「田島弥平旧宅」が所在するモデル地区「伊勢崎市境島村地区」の状況

## 課題の抽出

モデル地区「伊勢崎市境島村地区」の課題

世界文化遺産登録時に比べ観光客が減少してきている

養蚕農家住宅の空き家が増加し、街並みの整備が必要になってきている

廃校となった小学校跡地の利活用が漠然としている

住民が主体となって地域の課題を解決する

## 政策提言

地域の「たから（ひと・もの）」を掘り起こす！  
～伊勢崎市民の手による世界文化遺産を活用したまちづくり～

- 境島村地区まちづくり推進会議の活動活性化
- 養蚕農家住宅を民泊施設、ショップに改築し、観光客の消費を促す
- 廃校となった小学校跡地を観光施設として活用する
- 行政と連携し観光客に分かりやすいサイン表示・交通網を整備

## 効果

- 養蚕農家住宅・小学校跡地の観光施設としての有効活用
- 観光客増により地元の収益の増加
- 地域の活性化・地域の持続につなげる

# 「愛着」・「誇り」を育む シティプロモーション

愛知県碧南市をモデルとして



【指導教官】 自治大学校客員教授  
佐々木 淳

【第2部課程 第182期 第12班】

1番	旭川市	藤永	浩文
29番	秦野市	佐藤	剛
40番	碧南市	加藤	和彦
42番	高浜市	平川	亮二
48番	松阪市	白上	陽亮
49番	草津市	山田	晋作

目 次

政策提言の要旨	1
はじめに	2
1 はじめに	2
2 人口減少問題の捉え方及び目的	2
3 人材誘致コーディネーター水戸抄知 氏へのインタビュー	3
第1章 碧南市の現状分析	4
第1節 碧南市の概要	4
第2節 碧南市と近隣5市の比較	4
1 人口等の分析	4
2 定住条件の分析	7
3 分析結果の考察	7
第2章 課題の抽出	8
第1節 シティプロモーションの課題	8
1 これまでのシティプロモーション	8
2 本研究で取り組むシティプロモーション	8
第2節 碧南市の課題	8
1 課題1 専門組織の必要性	8
2 課題2 20～30歳代に向けたシティプロモーションの必要性	8
3 課題3 関係人口の増加に向けたシティプロモーションの必要性	9
4 課題4 学生に選ばれるためのシティプロモーションの必要性	9
第3章 政策提言	9
政策提言①	9
政策提言②	10
政策提言③	12
政策提言④	13
第4章 効果	14
おわりに	14

## 政策提言の要旨

### 現状分析

- 5年後の人口が減少するのは周辺6市で碧南市のみと推計
- 20歳代は転入超過、30歳代で転出超過という特徴的な人口移動
- 財政状況、施策は近隣市と比べて遜色はない



手を打たないとまちの活力が失われる

### 目指す姿

「市民」と「行政」が共に碧南市に「愛着」と「誇り」を持ち  
「動きのあるまち」にすること

### 課題抽出

- 行政は、受け手が求めている情報発信ができていない
- 地域住民がまちの魅力に気づく機会がない
- 市外の人が碧南市の魅力に共感し参加する機会がない



碧南市を知ってもらう活動としてシティプロモーションを展開

### 提言

**多様な人どうしをつなぎまちの「動き」をつくりだすための  
シティプロモーション(CP)**

#### 【政策提言①】 **組織**

行政と住民と一緒に地域のことを考えるための庁内組織

#### 【政策提言②】 **参加**

若手を中心とした新旧住民や市職員が地域のキーパーソンとともに碧南の魅力をつくるCP

#### 【政策提言③】 **つながり**

碧南に興味を持ち、まちづくりに関わってくれる市外の人を増やすためのCP

#### 【政策提言④】 **交流**

学生たちに碧南を「自分にとって大切な場所」と認識してもらうためのCP

### 効果

共感型シティプロモーションにより多様な人のつながりや交流を促し、「まちの動き」を創出することで人口減少社会においても持続可能な「強いまち」につなげる

# 高齢者が住み慣れた地域で暮らせる 移動手段等について

～鹿児島県日置市～



日置市イメージキャラクター  
ひお吉くん

## 【指導教官】

自治大学校客員教授 原田 淳志

【第2部課程第182期 第13班】

24番	流山市	橋本	純司
3番	歌志内市	三浦	悟
26番	香取市	高岡	真一
71番	日置市	上	勇人
79番	高岡市	塩谷	慎久

# 目 次

<b>政策提言の趣旨</b> . . . . .	1
<b>はじめに</b> . . . . .	2
<b>第 1 章 現状と分析</b> . . . . .	2
1 日置市の概況 . . . . .	2
(1) 位置・地勢 . . . . .	2
(2) 人口 . . . . .	2
(3) 財政状況 . . . . .	3
(4) 公共交通 . . . . .	3
<b>第 2 章 課題の整理</b> . . . . .	6
<b>第 3 章 政策提言</b> . . . . .	7
提言 1 東市来地域におけるコミュニティバスと乗合タクシーの併用化…	7
提言 2 公共交通網の維持、永続させるための利用促進策の実施…	11
<b>おわりに</b> . . . . .	14

# 政策提言の趣旨

## 【背景】

- ・人口減少社会（高齢化の進展による高齢者人口の増と高齢化率の増加）
- ・財政負担の増加
- ・将来的な利用需要も含めた公共交通網の維持の必要性



## 【日置市の現状と分析】

- ・人口減少と高齢化の進行状況
- ・財政状況
- ・公共交通の現状
- ・アンケート（日置市地域公共交通網形成計画策定の際に行われた）結果及び利用者の声



## 【課題抽出】

- ①市民の移動実態と交通体系がミスマッチ、交通結節点における公共交通間の接続状況が悪い。  
（一部地域では、コミュニティバスの1日乗降客が0人のバス停も少なくない）
- ②高齢化率が高い一方で、自家用車への依存度が高く、免許証返納に対して後ろ向き。
- ③将来の高齢化の進行に対して公共交通への不安を感じており、今後も引き続き運行されることを希望する意見が多い。
- ④財政状況が厳しい中、コミュニティバスに係る市の費用負担が増加傾向にある。
- ⑤上記課題の影響もあり、コミュニティバスの利用者数が減少傾向にある。



## 【政策提言】

### 1 東市来地域におけるコミュニティバスと乗合タクシーの併用化

#### (1) 高山地区・上市来地区における乗合タクシーへの移行

- ・公共交通網の運用の統一
- ・コミュニティバスの利用状況を踏まえた乗合タクシーへの移行
- ・流動実態等を鑑み、伊集院地域を結ぶルートの設定

#### (2) コミュニティバスのルートの変更及びJR、路線バスとの接続を踏まえたダイヤの設定を行い、利便性を向上

### 2 公共交通網の維持、永続させるための利用促進策の実施

#### (1) コミュニティバス等に係る情報発信

- ①マップの作成
- ②乗車体験の実施

#### (2) コミュニティバス等を守り、育てる意識の醸成策

- ①企業サポーターの募集
- ②子どもによるポスターの車内掲載

# 中山間地域等の 高齢者への外出支援対策事業

～岩手県盛岡市砂子沢地域への提案

限界集落を救え！！～



## 【指導教官】

自治大学校客員教授

上 田 紘 士

## 【第2部課程 第182期 第14班】

35番	静岡県島田市	佐藤 正 己
8番	岩手県盛岡市	菅原 迅
10番	宮城県登米市	平井 崇
30番	神奈川県海老名市	井上 雅文
31番	新潟県小千谷市	佐藤 英樹
34番	岐阜県各務原市	堀 善子

# 目 次

政策提言の要旨 .....	1
はじめに .....	2
第 1 章 岩手県盛岡市砂子沢地域の現状 .....	2
1 砂子沢地域の概要その 1 .....	2
2 砂子沢地域の概要その 2 .....	3
3 中山間地域等の介護サービスの現状 .....	4
4 砂子沢地域の公共交通の現状その 1 .....	6
5 砂子沢地域の公共交通の現状その 2 .....	7
第 2 章 課題抽出 .....	7
1 民生委員へのヒアリング調査 .....	7
2 課題抽出 .....	8
3 政策立案にあたって .....	9
第 3 章 政策提言 .....	10
【政策提言 1】介護保険の総合事業を活用した移動支援 .....	10
【政策提言 2】マイカーを利用した相乗りライドシェアによる外出支援 .....	11
おわりに .....	14

## 政策提言の要旨

# 中山間地域等の高齢者への外出支援対策事業

## 背景・現状分析

- 砂子沢地域の高齢化率は、盛岡市全域の 24.77% を大きく上回る 64.04%、人口 89 人、42 世帯のいわゆる限界集落。
- 築川ダムの建設工事等により急激な人口減少を招いており、民間バスは運行していない。
- 自動車を持たない高齢者は、買い物や通院で外出する場合、市が週 1 回運行する患者輸送バスに頼らざるを得ず、不自由を感じている。
- 外出する機会が少なくなり、閉じこもる高齢者が増加傾向。介護予防・介護サービスを受けられない高齢者の増加が見込まれる。

## 課題の抽出

- 今後の高齢化の進展により、自動車を手放す高齢者が増加していく。
- 唯一の外出手段である患者輸送バスの増便は、利用者負担増や用途外使用の理由から困難で、高齢者の外出ニーズが満たせない状況。
- 介護予防に有効な介護予防教室やサロンが地域内になく、約 30 km 離れた市街地に通うしかない。

## 目 標

- 1 介護予防教室への参加支援
- 2 高齢者の通院、買い物等の外出支援



## 政策提言

- 1 介護保険の総合事業を活用した移動支援
- 2 マイカーを利用した相乗りライドシェアによる外出支援